大正八年一月一日發行　大正七年十二月二十八日印刷納本　（每月一回一日發行）　明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

女子青年界

新年號



第十六卷 第一號

女子青年界目次

大正八年一月號

▼會説▲

謹賀新年

大正八年正月元旦

舊年中の御厚情を深謝し
併せて今後會員諸敬姉の上に
神恩の下いみじき御幸福あら
ん事を祈り奉る

東京基督教女子青年會
總幹事　イー、アール、カフマン
同　加藤高子
學生部幹事　渡邊百合子
家政科主任　エフ、エー、バタソン
教育係　中西司娜子
事務係　平岩末子

謹みて新年を賀し奉る

大正八年一月元旦

大阪市北區東梅田町二八〇
大阪基督教女子青年會

恭賀新年

大正八年一月元旦

舊年中は御厚情を蒙り難有奉感謝候
尚本年も不相變御引立を奉祈候

女子青年界印刷所
三成舍　前川吉治郎
社員一同

宮内省
各宮殿下 御買上八回

桑港萬國大博覽會 銀牌受領

於博覽會共進會 金、銀、銅牌廿餘回受賞

甲斐國產

御申越次第商品目錄進呈

水晶細工品

印篆刻
眼鏡一式
軸掛
裝身具
床置物
珠數

指環、中差、簪、櫛、根掛、エリ止、帯メ、守玉、ヒン、カフス釦

印傳袋物

二ッ折札入
弗入
財布
莨入
手提
手袋
スクールバック

共紐、叺、御殿持、巻莨入、火の用心、交人持

水晶印章篆刻幷に細工品共懇切を旨とし精々勉强仕り
御好みに應じ如何樣にも確實に御調進可申上候

商標

玉泉堂

山梨縣甲府市柳町
電話百〇二番
振替口座東京五〇六四番

謹みて平和の新年を賀し奉る

大正八年正月元旦

御恩寵の下に會員、講讀者諸敬姉の御援助に依り豫期以上の發展をなせるを感謝し併せて將來の御後援を希ふ。

會員、講讀者諸敬姉の上に
神の御祝福豐ならんことを

日本基督敎女子青年會本部
總幹事　河井道子
同　エム、マシウ
事務幹事　エム、ガンタ
事務係　堀順子
雜誌係　佐藤正子

大正七年に於ける事業擴張の梗概

一、本部へ加盟の支部
- 大阪市女子青年會
- 梅花高等女學校
- 梅光女學院
- 東京女子大學

二、新職員
- (一)日本人　九名
- (二)米人　四名

三、受洗者志道者
本會は敎會學校を補佐する位置にあるを以て受洗者志道者の數は明にするを得ざれども夏季修養會に於て決心せし者は約三十名なり。

四、西伯利及内地巡廻
- (一)マシウ幹事及體操部主任ミス、ホンダは米國赤十字社の依頼により昨九月より西伯利にて活動
- (二)河井、加藤兩幹事西伯利を視察
- (三)河井幹事は米國本部の幹事を伴ひ北海道及關西に旅行、同幹事關西及內地支部訪問は平均月に一回

五、基本金
- (一)金一千圓也　森村開作氏
- (二)金一萬圓也　淺野總一郎氏

前付入

女子青年界　第十六巻　一月號
大正八年一月一日發行

會説

新年よりの服装

河井道子

新年を迎ふるに當り、其準備として各家庭はそれ相當に忙しく、殊に婦女子はお正月の晴着に苦心を致す時であります。從つて年末の新聞雑誌婦人欄は服装や流行で紙面を飾る次第であります。如何に粗末とは云へ、お正月に新調の衣服を纏ふ事は、氣持の良いもので、此習慣も結構なものであると思ひます。然し何を着、何を飲み、何を食ふ可きやにのみ腐心するが、正月を迎ふる意味ではありません。最も肉體のある限り、衣食に心を用ゆ可きは至當でありますが、さりとて人はパンのみにて生くるでも無く、又綺羅を飾つて幸福であるものでもありません我々は身に適ふものを纏ひ、食し、感謝の中に新年を迎へるのが第一の要素であります。

休戰になり、又平和が來ると云ふても、物價の騰貴は益々其度を高め際限を知りません。斯る場合流行の絹布を求め、或は新年よりの意匠競爭などは、我々の及びもつかない處であり、又流行欄などは、此誌の預る處ではありません。然しキリスト教信者

は如何なる服装を爲す可きか、聖書が明かに教へてありますから、其を紹介して、大正八年よりの信者の禮服や常服にしたいものと思ひます。此服装は東西を問はず、永遠までも、廢る事なき流行の標準でありますから、諸姉に御勸申します。

□衣服と裝飾

爾曹の心の靈を新にし、神に象りて、眞理の義と潔にて造れる新人を衣る可し。

(以弗所書四ノ廿三―廿四)

爾曹神に選ばれて、聖潔かつ愛せらるゝ者と爲たれば、慈悲、矜恤、謙遜、柔和、忍耐を衣よ。この諸の事の外に、愛を加へよ。愛は衆徳の帶なり。

(哥羅西書三ノ十二ト十四)

爾曹の裝飾は、髪をくみ、金を掛け、又衣を着るが如き外面の裝飾に非ず、只心の內の隱たる人即ち壞ること無き柔和恬靜なる靈を以て裝飾とす可し。

(彼得前書三ノ三―四)

髪を編むことと、金と眞珠と價貴き衣を以て、裝飾とせず、善行を以て裝飾とせよ。

(提摩太前二ノ九―十)

かう云ふ樣な服裝や飾は、我々は要求に從ひ、無代にて神より與へらるゝのであります。而して啻に是等のみならず、尙神が其以上高尚なる衣服を、我々に賜ふのであります。即ち愛の心に換へて、讃美の衣を與へ、又我に救の衣を着せ、義の外服を纏はせて、新郎が冠を戴き、新婦が玉黄金の飾をつくるが如くなし給ふ也とイザヤは申て居ります。

(賽亞書六十一ノ十)

斯く神の備へ給ふ衣服を着して、如何になるかと云へば、即ち神の像に似ると云ふのが主眼であります。我々平素見聞する處に由れば、女學生が女優の容姿を眞似、生娘が藝者風情をまねる事で、啻に服裝のみならず、言語、動作に於てさへ、往々あります。又或場合には、立派な奧樣となつて居らるゝ人でも、昔は賤しい人であつたと云ふ其樣子が、髪容

衣裳の嗜好などに、特に趣味などに表現るゝ場合も御座います。お正月は婦人に取つて、衣裳比べの季節であり、それに由つて人々の嗜好、趣味が表はるゝ時であります。私共は神の與へ給ふ靈的衣裳の競爭をしたいものであります。而して我々の思想、言葉、行爲が神に似て居る樣になりたいものであります。之を一言で云へば、聖書に爾曹エス、キリストを衣よと云ふてあります。キリストを衣たるものは日々新たで、流行の廢る事はありません。誠に衣る事を得ば、裸になる事なからんと使徒パウロは申して居ります。私共は或時は正義の衣を喜び、或時は不義の冠を慕ひ、又神の賜物を望むかと思へば、惡魔の與ふる装飾物を切望する樣な者で、絶えず裸體か、不釣合かさもなくば、實に穢しい服装をして居ります。如何しても、嫉妬、憤怒、情慾、醜言等の弊衣を、惜氣も無く脱ぎ棄てる大决心を致さねば、神は决して我々に新らしき衣を與へ給はないのであります。

□娯　樂

又新年に我々は樂しむと云ふ良い習慣を持つて居ります。それで、人の樂しみ方も新年に最も能く表はれます。人間が心嬉しき時は、唄を歌ふと云ふのは、自然的發作とも云ふ可きでありませうか。私の住居の附近に、中々よくはやる料理店があつて、毎夜十二時迄、騷々しい事、甚だしいのでありますが此醉客が荒聲で喧嘩をして居るのと、下品ながらも快よげに、唄をうたつて居るのを聞くのと、非常に異つた感じを與へます。彼が唄ふて居る時は、愉快に感じて居るのでありませう。熟々思ふに、此うたひ度い心持を、神を讃美するに使つたなら、世の中は、さぞ美化する事でありませう。何によらず、音樂を樂しむと云ふ事は、美しい事であるから、之を奬勵し、其趣味を養ふが至當であります。何うか東洋の樂器も、神を讃美し、人の德を賞め讃へ、思想を高調せしむる樣に、使はるゝ樣にしたいものであ

ります。飲食して歌ひ騒ぐ事のおほい正月に、私共は又聖書よりして、如何なる事を平素樂とすべきやを學びます。ダビデの如きは悲につけ、喜につけ絶ず神に歌を以て訴へ、且感謝しました。衷心嬉しい時は何時でも神を中心として歡喜うたつたのであります、詩篇は皆譜の付いた讃美であります。其一二を擧げてみませう。

「わが心さだまれり神よ我心定まれり、我謳ひまつらん、我榮よさめよ、箏よ琴よさめよ、われ黎明をよびさまさん、ラッパの聲をもて神をほめたゝへよ箏と琴とをもて神をほめたゝへよ、つゞみと踏舞とをもて神をほめたゝへよ絃たけをもて神をほめたゝへよ音のたかきねうはちをもて神をほめたゝへよ」

使徒パウロは又此點に付き敎へて

「酒に醉こと勿れ宜く靈に滿さるべし、互に詩と歌と靈に感じて作れる賦とを以て語りあひ又歌ひて汝等の心に主を讚美すべし」と申て居ります。勿論私共は常に神の事を口に出すべきではありません、普通の談話や、笑話に聖書を引用などすべきではありません、よく若い人々のする事ですが、餘興などに讃美歌をうたひ、又聖句を論じたりする事は禁物であります。其他の場合にも私共は何時神につき談り讃美すべきかは常識を以て致すべきものです。其故今爰に論じますことは、我々が眞に樂みとおもふ時にも神なしでしてはならぬ、即ち神樣が御きゝになり、又御覽になつても決して恥かしからぬ笑話や、面白い歌などがよいし、赤心嬉しい時は其聲が神をほめたゝへる事になる樣に、人の噂をうるにしても益ある樣にするがよいとの事であります、つまり正月に對しての我々の心得は飮むにも食ふにも何事を行ふにも神の榮をあらはす樣にせよと申す一言にあると存じます。

是等服裝と云ひ、裝飾と云ひ、娯樂と云ひ、只に新年にのみ用ゆ可き敎ではありません。年中、終世我々と離る可らざるものであります。而して何處に行つても、我等が神の子たるの光榮を表現す事が、出來る樣に、日一日と其榮を増し加へ度いものであります。

講演

デモクラシーの眞義

新渡戸稲造

永い間の戰爭も首尾よく終つて、大正八年の春匆々世界各國の代表者が寄つて平和會議を開く。其の内容は未だ知る可くもないが、恐らく其結果として世界の思想を變へる大變化が來た、これは他でもないデモクラシーの思想である。

デモクラシーと云へば普通日本では民主主義とか又近頃は民本主義と譯して居るが、西洋でも日本でも兎角誤解の多い言葉であつて、善い意味にも惡い意味にも用はれて、何時も議論の絶えない語である言葉丈見れば民主の政治、若しくは民主の勢力と云ふ意味であるが、其の民主なるものが抑々何であらうと質せば、之に就て人が色々に見解を異にして居る。人に由つては中流社會の幾分か敎育があるか又中位の資産のあるものを代表的民主、或は國民と稱して、專ら彼等の意を重んじて國を治む可しと主張する人もあれば、又人に由つては國民の大多數を占めて居る所謂下層社會を以て民主として居る。下層社會と云ふ字は甚だ人を侮辱する樣に聞えて僕は何時もこの字を用ふ事を躊躇するが、一般に下層社會とは勞働者或は職人、小商人或は小百姓を云ふのであつて國民の十分の七は所謂下層社會の者である。故に民主の意を尊重すると云へば、敎育も低級である資産もない大多數の人々の幸福と望を尊重して國を治むる事をデモクラシーと云ふ樣である。右の次第であるから、兎角同じ民主なる文字を用つても、甲と乙との間に思想上大分差があつて、之が論爭の源となつて、同じく民主論を稱ふる人のうちに、内破れやら同志打が起つて、折角世界の大趨勢など丶

稱する勢力をも、同志打の爲に折角の勢力を善用する事が出來ずして却つて國の平和を害したり、從つて民主の禍を來す事が少なくない。殊に我國に於て民主論などゝ稱すれば、君主論に反對する說にして我皇室に叛き、我國體を破壞るものゝ如く心配する人もあるけれども、成程文字だけより見れば其懸念もないではないが、實際如何かと糺せば、民主々義を標榜して居ても實際獨裁君主を戴いて居つた國もあつた如く、君主國と稱して居ながら、實際民主々義を實行して居る所もある。前者の例は羅馬帝國の始、後者の例は現今の英國、故に我國に於て民主論を主張したとて、皇室や國體を破るものとは思はれない、寧ろ此世界の大勢に逆つて我日本國だけは別だと信じてこの大勢に逆ふとする者こそ皇室や國體を危うくする結果を持來しはすまいか、民に重きを置く事は二千年の昔より歐羅巴では盛に實行されて居つて、歷史を見れば凡て政治の進步は之である。我國に於ても民を以て基とされ、皇室と民と利害が反對の樣には思はれなかつた。御自分のお居間に雨が漏つても、高樓にのぼりて煙立つのを見られゝば民の竈は賑はつた、之即ち朕富めりと宣はれた樣に民主の利害と皇室の利害が合體するのが我國體である。私の歷史の見方が誤らないならば、奈良朝以前には民と皇室との親しみが、甚だ深かつたものであつたらしい、藤原氏が跋扈してより後華族或は武士の階級等が間に這入つて、この親しみを破つたのではなからうか。今日も華族を以て皇室の藩屛等と稱して居る。藩屛とは何の意味であらうか、物知りに質せば塀の樣な城壁の如きもので、皇室を保護する爲の塀であると謂ふ。何に對して保護するのか外國の襲來に對しての意味ならば、何も華族に限つた事はない國民擧げて藩屛となる。殊更華族を藩屛と稱する事は恐らく敵が國內に居ると見做しての話であらう。即ち華族以外の者、平たく云へば平民共に對して皇室を守ると云ふ樣に聞ゆるが、果してこんな意味ならば、無意味と云はねばならぬ、如何となれ

は平民が皇室を惱ましたり、攻めたりした事は其例甚だ少ない。日本の歴史を見ると皇室を惱ました者は僧侶と華族である。自分等が皇室に對して我儘な事をしたくせに、自ら忠義ぶつて藩屏等と稱し、忠良なる人民を疑ふ如きは、之即ち皇室と人民との間を疎隔するのであつて、若し民主主義に敵があるものとすれば、この疎隔をする者を敵とするのであるそれならば華族を敵とするかと云ふに、華族によりけりで、單に華族と云ふ名を以て居るから民主々義の敵とは云はれぬ。華族の中にも民主々義を奉ずる人が少なくあるまい、主義の議論である以上は何の階級、何の職業に居る者が敵とは云はれない、よく普通に民主々義に反對するものは、軍閥或は官僚と云ふて居るが、之を間違へて軍人は悉く民主々義を邪魔するとか、官吏は悉く民主々義を破壞せんとは云はれない。

　我々は基督教信者として人に對するに、階級的觀念を持つ事は望まない。リンコルンの所に或人が行つて、あなたは下等社會の者に殊更厚くて、上流や中流の人をさほどに尊敬なさらぬが、どういふ理由ですかと尋ねた所が、彼の答へるのに「神は下層の人を一番お好きなものと見えて、數も一番多くお造りになる」と云ふたが、神の聖旨を奉じて人の子を愛する者は、品がよいから上流社會を好むとか、資産教育があるから彼等を重んずるとか云ふ事は出來まい。國民の最大の數を占むる、所謂下流の人々に專ら情を施こし、即ちデモクラシーの心持を持たねばなるまい。而して上中社會を敵視するのは勿論信者の態度ではない、又自ら上中の社會に居る者は態々下層社會に落ちて、勞働者になつたり、或は學校を止めて自ら無學な事に甘んじるのは、之又デモクラシーの本旨ではなくて、デモクラシーの上中流の社會に求むる事は、資産ある者は其資産を只自分の快樂のみに用はないで、民衆の爲になる樣に、即ち我儘したり道樂したりする金があるなら、自ら愼んで或は貧民の教育或は慈善事業に費したり、教育あ

る者は益々教を勵んで、得た處の知識は之又他人に誇る道具としないで、この知識を成丈け多くの人に分つて教育の受け難い者共にも知識の恩澤を幾分なり分つと云ふ樣に、衆と共に樂しみ、又衆を一歩なりと向上せしむることに勉むるのが、デモクラシーの事業を助け、世界の風潮に順應するものであらう一口に云へば、デモクラシーとは衆民に同情をする心の態度で何も危險の事はない。（在文責記者）

聖地デー

二千年の昔主キリストの親しく踏み給ひし地や、モーセ、アブラハムの往來した小亞細亞の聖地に於て數年間の戰の爲饑死せる者既に一百萬、悲鳴の中にある二百萬の良民の中、孤兒となれる可憐の子供が四十萬あるさうです。

主は「誠に汝に告ぐ、わが兄弟なる此等のいと小さき者の一人になしたるは即ち我になしたるなり」と仰せられました、今や彼等を援助するは基督者の急務でありませう、米國では既に約二千萬圓の義捐金を集めて被害地に送つたさうです、當局者の言に依れば、此等の人々を救助する費用は平均一人月に十圓程であります、其處で主の愛し給ふ小さき者の一人の生命を救ふ爲に、日曜學校協會は十二月の中の或日曜を選び聖地デーとして、聖地に苦しめる人の爲に讃美し祈願し獻金を集めらるゝ事になり各日曜學校には、其旨趣書及聖地デーの執行順序等印刷されて配布になつた筈です、今茲に其等全文を掲げる事が出來ませんから、委しくお知りになりたい方は東京市赤坂區檜町十、コールマン氏宛又は東京市神田區美土代町青年會館内日本日曜學校協會川澄氏に御問合せ下さい。獻金も同氏宛に願ひます。

降誕祭の贈物やお年玉に費すお金が十圓になれば一人の人の一ヶ月の生命の救へる事は私共考へねばなりませぬ。

共同責務の觀念

第一高女校長　市川源三

男子と女子とを比較して見ると、女の方が男よりも道心堅固で戒律を守つたり德義を盡したりすると思ひます。宗敎の側より見ても道德の側より見ても男に勝れて居つても劣らぬと思ひます、而しその實踐躬行の動機を研究して見ると情ない所が多いと思ふ、質素にしなければならぬと云へば婦人はその通り守る、そしてあなたは大變質素にしてお出になると褒めると、その挨拶が面白い「さうしないと皆さんに何か云はれるから」皆さんに何か云はれると恥かしいから」など丶云うて專ら他人の手前をはゞかつて道德を守つて居る樣に自白する、學校の先生にしてもあなたはよく生徒を躾けておいでになると褒めると、其返事が又變つて居る「皆さんに敗けては大變だから」「人にかれこれ云はれるのは恥だから」など云つて、他人への見榮の爲、謗を避ける爲、賞讃を得る爲に善をなして居る、節儉は克己の第一步修德の一法と思つて節儉をして居るのではない。生徒を躾けるのも子供をよく育てる爲、又人材を作ると云ふのではなくして、自分の笑はれぬ樣にと云ふのが目的らしい、斯く上流の婦人でも、人の師たる敎育家でも自分だけよければよいと孤立的に考へる故、自分をよくする事には努めるが、お互に人の缺點を注意し合つて、相互に善に勵むと云ふ精神には乏しい。

婦人の道德を守り、戒律を守る上に於いて右に述べた樣な傾向のあるのは、自分は社會の一員であり一員であるからには、社會の向上進步にはお互に其責任を盡さねばならぬと云ふ觀念の乏しい爲ではなからうか。自分の責任を感じ共同責務の觀念に基いた道德は眞のものであるが、他人の前をはゞかり外

部より制せられてする善行は眞の意味にはならぬ。自分の善言德行は社會の進歩發展の爲で、自分がそれに依つて如何なるかと云ふことは偶然で必然ではないと云ふ考をもつならば、茲に於て初めて婦人が眞に發展するのである。

さて、人は人、自分は自分と考へる日本婦人の此の弊風は婦人が專ら家庭と云ふ狹い處に蟄居して居り、又一生の事業が家庭内に限られて居る所から來るのである、而して家庭に蟄居すると云ふ事が良妻賢母であるかの如く解釋されて居る。本校の卒業生の家庭に就て考へて見ても卒業した者は學校の同窓會にさへ出るものでないと云ふ親がある、又某專門學校の卒業生の一人は夫が決して同窓會に出さないそれは同窓會に出ると、どうも歸つて來て男女同權などゝ稱へるから困ると云はれるさうである、旅行なども在學中は喜んで許して居るが、卒業してしまふと同級生が數人集まつて何處かへ行かうなどゝ云つても親は決して許さない、只女は家に居るものと思つて蟄居ばかりさせておくのである。かくて社會的知識が乏しく責務の觀念がなくなるのである。家庭に蟄居することが社會の進歩發達に有害なるのみならず、家庭其者にも非常に害を與へるのである。家庭を作るにも夫婦二人が家庭を作ると云ふ考が出ないで、希望されたから來たとか、頼まれたから來たのであるから、夫に奉仕さへすればそれでよいと考へる妻君もある。本校の卒業生へ或人が自分の部下の者の爲に結婚を申込んだことがあつた。私は何故本人が申込まぬかと聞くと、「現今の婦人はもし本人が希望するからなどゝ云ふて申込むと、頼まれたから來てやつた、望まれたから來たなどゝ云ふ考があるから賓客として取扱はねばならぬが、自分が部下の者の爲に申込めば、主從の關係上こんな考はもつまい」と云はれた。之は一例であつてどちらも間違つた話で、斯る事實が日本の結婚の不完全を暴露したものと思はれる。

家庭が夫のものでも妻のものでもない兩人のもの

である以上は、只夫の爲に犧牲になるのは不完全なる犧牲で、家庭の爲に犧牲になるのこそ眞の意味に於ける犧牲である。夫と云ふ個人に對して仕へる考はあつても、家庭に奉仕すると云ふ觀念に乏しい人が多くある。其で家にのみ居つて夫の云ふが儘に仕へて居りさへすればよいと云ふ所から、家庭に入ると益々陰氣になつて、夫婦の間に知識經驗の相違が生じ、これが年毎に增すと遂には不滿を起して男子が中年に至つて妻を嫌ひ、不道德を行ふ樣になると云ふ例が多くある。男は常に外界の刺戟にふれて知識も進み經驗も積むのに、婦人は家にのみ居つて同じ仕事を繰返して居るから、思想も舊くなるし、自然一家も圓滿にゆかぬ理由である、故に婦人の知識を進め、一方に於て共同責務の觀念を發達せしめる爲にどうしても婦人を外に出し度い。私はこの考から第一着として本校の卒業生に向つて、一週に一日自分の日を貰つて、其日は自分の修養の爲研究の爲に過す樣に、又結婚する時にも一週間に一日は自分の日として貰ふことを一條件にせよと云つて居る。さう定めれば親も姑も不愉快には感じないし、自分も自由である。さうでないと今日は出ようと思つても、今日は今日はと云ふて本人も無性になり、又都合の惡くなる事もある。所で信者の人は一週に一度は教會に集まつて說教を聽く機會があるからまづよいが、其他の人はかう云ふ機會が與へられない。人間はどうしても一週間に一度位は修養談を聽かなくてはならない、其所で私は何か修養所を設け度と思ふが、それも早急の事にはゆかぬから私は教會に對して希望がある、それは半日は信者が集まり、半日は一般の人が集まる修養の機關となる樣に工夫して戴きたい。日本人は西洋の人と違つて教會と云ふものを毛嫌ひする人があるから教會は基督の話ばかりをするのでなく、修養談もするのであると云ふ感をもたして導く樣にしたらどうかと思ふ。（丁）

ブックマン氏講話の斷片

□神の聲と電話

電話をかける時、此方から「モシ〱」と呼出して話をしかけながら、先方の話を聽かない者はなからうが、吾々は神をお呼出しして、自分の言ひ度い事を申上げて、先方で返事をなさるのを聽かない者が多い。又お返事はあつても自分が餘り喋舌る爲にそれが聽えず、又返事をおさせ申す暇を與へずして對話をする事が往々にある。

□早起をする爲に十圓金貨

神と交通を計らうとするには隨分努力して其習慣を作らねばならぬ。倫敦にて一人の苦學生が早起をする習慣を作る爲に、毎朝四時に起きる事を自分で誓つた。それはもし四時に起る事が出來ない時は、十圓金貨を河に投げる事に決心した。然るに彼は寢過ぎて主の誓を守ることが出來なかつたので貧苦の中から十圓金貨を投げた、次の日も寢坊をしたので又金貨を投げた、これは苦學生にとつて容易なことでなかつたが、遂に彼は早起の習慣を作り得て神と語る時間を持つたが故に、今日では有名な靈界の人物となつた。

□二十日鼠の信仰

或人は絶間なく活動をして居るが少しも進歩しない人があつて、同じ程度の處を廻轉して居る事は恰も輪中を走せて居る二十日鼠の様で、暇なく走つては居るが、何處にも達せず進歩もしない人がある。

□神病的の人

宗教心の強い人の中には、神病とも云ふ可き病氣につかれて居る者がある。即ち何でもかでも神々と稱へ、地上にありながら全く周圍の事を忘れ、只神を稱へ、何の努力も何の奉仕をも隣人にしない人が

ある、聖書に「我を呼びて主よ〳〵と云ふ者悉く天國に入るに非ず、只主の旨を行ふ者のみ入るを得」。

□聖書と新小説

一人の墮落書生が改心したが、其改心の決勝點は何であつたかと云ふと、彼は一夜室に閉籠つて聖書と新小説とを交る〳〵讀み、夜中の三時迄神に歸依するか世に歸依するかと考へながら讀みつくした、遂に神に屬せんと斷乎として新小説をふりすてたと云ふ事である。

□眞の懺悔

或る基督者が政府を欺かざる事を誓ひ、今迄支拂ひしより年年六萬弗以上に加税さるゝ樣にと申した人があつた。之を知つて後自分も何か公の筋より特別の恩惠を受けた事を心苦しく思ひ之を辨償せんとして、二百弗の金に對する告白狀をそへ、姓名を記して社會に拂ふた事があつた。懺悔をする時は自分の名前などは表はさずとよいと云ふが、矢張り匿名などは宜しくないと思ふた。懺悔をする時に餘り容易過ぎる樣になる事は弊害である、或人は自分の惡い事をペラ〳〵と人の前に云ふが、眞の懺悔には苦痛がはいつて居るから、そんなに容易に云へる程易つぽいものではない、又不道德の行爲に對する懺悔などは決して人の前に懺悔すべきではない。此等を忘れて無差別に懺悔をすると云ふ事は、却て己には自負心を與へたり、他には惡しき印象を與へる樣になる、懺悔は愼んで爲す可きものである。

□漬物のビル

私は獰猛で有名な「漬物ビル」を回心させた。彼は夜になると箒の先にコロヽホルムをしたした布を付けて、眠つてゐる鷄の鼻の先に差付け、醉つて上から落ちる鷄を盜むのが仕事であつた。或時漬物を盜み出したと云ふ所から「漬物ビル」と云ふ綽名がついた。彼は獄を別莊と心得て居つた大酒呑で、禁酒市で酒類の密賣をやつてゐた。是丈の事を考へても彼を回心せしむる事は寧ろ奇跡であつた。或日宴會に行く途中でビルに遇つた。彼に接近するのは此時

と思つたが、彼は亂暴で大力であるから、うつかり近寄るとどんな目に遇ふか分らぬと思つて、暫く躊躇したが、意を決して後から靜かに手をかけた、突然私の頭に輝く思想が起り適當な言葉が與へられた。

「ビルお前の爲に祈つて居るよ」

ビルは怒るかと思ひの外泣きだした、そこで私は彼と知己になり、基督の恵に就いて尠し話した。訪問もした。或る時私が帽子店で帽子を買つて外に出ると、ビルが突然「立派な帽子だな、俺に貰へないかしら」と云つた。其處で私は「君が若し僕の言ふことを聞いてトロント市に開かれる基督教の大集會へ同行を約束するなら之を上げよう」と云ふた。彼は初めは私が嘘を云ふのだと思つて信じなかつたが遂に同行を承諾した。

會場へ連れて行くと、會場の中を見廻はして立派なのに驚いた、一向講話に耳を傾けなかつたが、二人目の講師の時から段々注意を向け始め、何だか自分のことを話されて居る氣がして、熱心に聽き出した。遂に彼は彈丸が大砲の口から飛出す樣に起立して信仰の決心を現はした。彼は懇談會の席上で自分は罪人であることを告白した。教會は申合した樣にビルの回心を信じなかつた。然し彼は失望しなかつた。彼は舊仲間の大小の惡黨十五名程を集めて教會を創めた。第一回の集會で私は「われは天地のつくりぬし能はざるところなき父の神を信ず」より講義を進めて「死てはうぶられ陰府にくだり」の處迄來るとビルは「之を信ぜぬ」と叫んだ、他の連中も「俺も信ぜぬ」と云ひだした。ビルは又言をついで「ヤア分つた耶蘇は掃除をする爲に陰府に下つたのだ分つた」と叫んだ。

彼の教會は漸次に發達した。町の教會も彼の信仰の確實なのを認め彼を迎へた。彼は世の中の事情を知つて居るので基督教運動を起す時は必ず相談相手にさせられた。彼は仲間の惡黨を導いて回心さした之れ實に神が今も尚奇蹟を行ひ給ふたのである。

富永氏の聖書研究會に列りて

平岩末子

靈か肉か、靈肉合致の帝國を第三帝國とか聞いて居ります。私共青年會の働き人は聖書をよすがに靈の王國の形勝を訪ねて旅寢の淸き夢を結ばんとて否キリストの御愛の泉に浴しまほしき切願を持つて富永德磨先生の以弗所書の御講義を伺ひ初めましたのは日蔭も麗の初秋の頃で御座いました。

先づ私共の持つ可き聖書研究の態度として伺ひました事項の第一は日頃の私共の慾求を滿したので御座います。「普通の書に對すると同じ態度で」此御言葉に對する直感は一種異樣なと云ふ事を免れませんでしたが、傾聽して居りますうちに理解し得た其御言葉の眞相は私共若き聖書研究者に一道の光明を與へたのでありました。

我々人間が聖書は神の靈典なれば徹頭徹尾あらたかなるものなれとの一種の幻影に捕はれて繙く時はそこには何等かの幻滅か悲哀があるけれども、普通の書に對すると同じき虛心平氣の態度を以て研究する時に聖書は如何なる文豪の名著も如何なる賢人の大著も到底及び難い永世不磨のものであつて、基督教を現はしてゐる、即ち神と人とに關係せる生活を現はしてゐるとの妙味は津々として盡きないのであるとの先生の深刻な御語調は猶も續いて第二には聖書其物に對して忠實であり正直であつて曲解せず、且科學的の間違は間違として見る事、併し聖書其物を研究材料としてはいけぬ。其現はさんとしてゐるものを見る事、即ち其字句によらず其精神を見る事とは私共の心底に共鳴を促した事の第三で御座います。疑もなく聖ポーロの筆になれる以弗所書はルーコス溪谷にある諸教會に宛てた書翰ださうで御座いまして火山系の其邊一帶の地は地震の打擊をうける

事屢々にも拘らず、富源を天然の紫の染料に有して人民は奢に長じてゐたとの事には黄金の華咲く成金跋扈の我國の現狀を思はさせられました。

最も激烈な基督教撲滅論者であつた、タルソのソーロはダマスコに赴く途すがら基督の靈火の閃に接して彼の靈眼一度開けてより心機一轉――聖なる筆を起して、ローマ書の前半にはキリストにより義とせらるゝの宗教を說いて居りますが以弗所書には潔めの宗教を書き表はして其心境はまさに高調に達して居ります。禁獄書翰の名ある此書はポーロの信仰の圓熟の現れであるとの語は決して過言ではないと云ふ事を讀じまゝに知りました。

恰も一點の濁なき筧の水が淙々として流れ落ちて川流を淸むるがやう我等の救主の御血は我等の裡に流れて罪に染みし我等の血が淸めらるゝ……。

あゝ、私共の希ふ救の究極はこれでは御座いますまいか。

フランクリンは高潔なる理想の心的生活を編み出す爲に十戒訓を彼の胸に銘しました。けれどもそれは遂に努力の苦痛のみ多く効尠くあつたとは彼が晩年の悔恨で御座います。私共も些々たる道德訓に捕はれず先づ救主の御血に淸められ主と一體となり靈と肉との救を全ふ致し度いもので御座います。

多幸なりし大正七年をふりかへりみるに臨み富永先生には深き感恩の精禁じ難きものがあります。來らん年には彌々先生の上に神寵の豐ならん事を祈りつゝ此筆を擱きます。（大正七年十二月十二日夜）

消息の一

○坂よし子。東京靑年會保姆として永らく好交園に働かれし同姉は今回辭職されカーペンター氏經營の幼稚園に奉職さる。

○河井幹事。東洋英和女學校、東京女子大學、靑山女學院、學習院女子部同窓會等にて講話す。

○國井あや姉。女子靑年會伯利特派幹事として數月間浦潮に出張の事となれり。

○ミス、タピング。神戸幹事なる同姉は渡米婦人視察の目的にて廣島縣下を巡廻せり。

○ブレスコビスキー刀自。東京牛込區田町ミスマシュウ方に滯在。（記事參照）

女子青年會の珍客

一 幹事

浦鹽斯德より電報飛來して、十二月二日の朝敦賀港に到着するプレスコヴエスキー老婦人を迎へ、彼女を本部の幹事住宅にて歡待せよと、音信を持ち來たした。一日の夜行で本部事務幹事ミス、ガンター敦賀に行き一行を迎へ、三日午前八時半に、我々は東京驛に出迎ひに出た。新聞記者や寫眞班は大勢一行の周圍を取巻き、質問するやら撮影するやら、停車場は至つて混雜であつた。本會よりの花束を井深夫人老客に呈すると、彼女はさも嬉しげにそれを受け、出迎人一同に厚き挨拶をなし、自働車を馳せ、牛込田町の幹事宅に迎へたが、別に疲勞の樣子も無く元氣旺盛、壯年を凌ぐ有樣であつた。途中市街を珍らしげに眺め、學校行の男女學生を見て嬉び、直ちに敎育制度の質問をして、普通敎育の日本全國に普及して居るを嬉ばれた。一行は此老婦人と二人の露西亞青年、十三歳のチエックの孤兒と四人であつた。家に着くや直ちに諸所より新聞記者が包圍して休憩の暇をさへ與へぬが、快く人々に接し、何物に拘らず喜悦と滿足とを表現した。服裝は至つて單純なもので、飾も無き黑の洋服の上に、厚毛皮の裏したる黑の外套を纏ひ、鼠色のショールもて頭を被ひ一本の杖に身を寄せたる樣、純然露國の農民を代表した姿である。室內にては外套を取り、ショールの代りに白の大きなハンカチーフの如きものにて頭を被ふのみ。然し婦人の玲瓏たる眼、締りたる口元、血色よき顏頰、白髮の巨頭は彼女が幾十間年も、有ゆる困難辛苦と戰ひ、勝利を得た事を語つてゐる。今より十八ケ月以前、彼女がケレンスキー政府の時牢獄より救ひ出され、モスコーの冬宮殿に女王の如く迎へられ、到る處未曾有の歡迎と讃辭とを浴させ

られた如きは一言も彼女の口より出ない程、謙遜な平民主義な婦人である。如何しても一見普通の親切な、孫好きなお婆さまとしか思はれない。三十有餘年間囚人の取扱を受けたに拘らず、如何して此樣な平和な、温情に滿ちた表情が浮んで居るか不思議な程である。彼自身の言葉に、決して恨みも、憎しみも、妬嫉も我心の中には無く、西伯利に放逐されし時代、或は市中の監獄に縛がれし時と云へども、決して失望落膽に沈んだ事は無く、國を愛し、同胞を思ふ其念に由つて元氣を保ち、愛情を養ふたとの事である。

新聞など革命の老婆と云ふ樣な標題で人の注意を引くけれど、決して彼女は危險な人物で無く、又今日露國に在る過激黨とは全體に反對な穩健な思想を持つた人である。田町の家は色々な來客で毎日賑かである。婦人は誰にでも快く合ひ、某日八名の婦人新聞記者等を招き、對話された時も、露西亞風の挨拶なる頬に接吻を一々したので、記者連は最初啞然として言葉が出ず、一同笑ひ出した樣な滑稽もあつた。食事が濟むと何日も廊下を數度運動して、深呼吸をなし暇あれば書き物に餘念もない。或日神田會館のブクマン氏の集會後に來り多くの女教師に會見して大滿足で左の物語をした。

革命の母と呼ばるゝ人

「私の父は露西亞に大きな土地を所有して居りまして、其周圍には澤山の百姓が居りました。平素私は誰も一樣に教育を受け可きものだと云ふ考があつて十七歳の時父に一室を貰ひ、其所で近所の百姓の子供を集めて學校を初め出しました。教へた經驗がありませんので、教授學などゝ云ふ言葉は何の意味も自分にない、只熱心でやり通さうとしましたが、子供等が初めから興味を持たないのが苦痛でありました。それで夜床に就いてから何時も自分の考へた事は、どうしたら子供等に面白味を與へる事が出來やうかと云ふ點でありました。教科書など充分に與へ

る譯でもありませんし、只自分の知つて居る露西亞語、佛蘭西語、獨逸語、地理、歴史、ピアノをも敎へんと努力致しました。それから考へ付いた事は自分が子供の時どんな物が嬉しかつたかと考へて、今度はお伽噺や、昔物語をよく敎へ込んで之を諳誦させる樣にしました。段々子供等も喜んで來る樣になり、生徒の數も殖え兩親等も喜ぶので勇氣附けられ遂に父は私に一軒の家を買つてくれました。そして私は校長になつたのであります。當時或有名な敎育者が子供の敎授法などを敎へ又子供の讀物を出版したのが、どれ程私の爲になつたか知れません。追々學校が盛になるに從ひ、諸所より攻擊が起りました其頃は露西亞の暗黑時代で、敎育は下層の者には施す可らずと云ふ樣な方針で、其れ故私の學校も不評判になりました。若し子供を敎へる事が歡迎されないならば、今度は大人を敎へやうと其方にとりかゝりました。斯く十年間敎育に盡力しました結果、政府に逆ふ者と見做され遂に私は西伯利に二十二年流者にされましたのです。それから放免されて十一年間に全國を歩いて敎育の必要を叫びましたので、又十年西伯利にやられる樣になりました。前後三十二年間は諸所の牢獄に閉ぢ込められたり西伯利に流れ者になりましたが、私は決して怨恨、不滿、妬等は起しませぬ。只國を愛する精神とどうか國民が皆敎育を受け幸福になつて貰ひ度と云ふのが、私の昔から今も尙持つて居る希望であります。十八ヶ月前に放免され自由になりました。今年七十五歳になりますが、これから米國に行つて同情者に訴へ、どうか良い先生を露國に送つて貰ひ、皆を敎育して貰ひ度と云ふのであります。私は分自の國又人民が幸福になる爲には如何なる苦痛も辭さぬと云ふだけの勇氣があります而し露西亞は大きな國で、一部分の人が段々進歩して來ても、一億八千萬の同胞をどうしませうか。彼等を指導しやうとした敎師で二萬人の人が私と同じ樣に罪に處せられ、流者になつたのは近年の事であります、こう云ふ理由ですから私は尙進

んで世界に訴へ、自分の國をよくする爲によい先生やよい人々が露國においでになる事を望で居ます。

今から十三年前に米國に行きました事があります其の時も矢張り米國の同情者に援助を乞ひに行つたのでありまして、其の時分から澤山の友達が彼の國にはあります。名高いジエーン、アダムスなども友人の一人です、今米國に行きます途中日本に立寄つて、日本の皆様に非常な款待に預かり、何とも感謝の言葉がありませぬ、私は小さい時から孤兒です今は年を老つた孤兒でありますが、到る處に友達が澤山あつて困りません。初めてこの美はしい日本に來ますと、女子青年會の幹事や友人方が私を世話して下さいますし、又此處から米國に行けば澤山の友達が私を迎へて呉れます。私共は皆人の幸福と云ふ事を主眼として働き、特別教育に從事する人に眞に子供を愛すると云ふ念でするならば、苦しいと云ふ思は全くなく體もお蔭で丈夫になるほど樂しいものです。

大阪基督教女子青年會

祈禱項目

一、會長副會長につきて。本會未だ適當なる會長副會長を得ず諸氏の御熱心なる御加禱を乞ふ。

一、會館建築費募集のため大活動を始むべき議案出でたるに對し特に神の御示を仰ぐ事。

一部委員方より現在が最も大運動開始の好時機なりとの提案をされし方あり會の發展を計るため、又市內に適當なる婦人方の集會所を提供するため、右御熟考御加禱を乞ふ。

一、各組に出席者の多く與へられんため、又有益なる何物かを各組會員に與へらるるやうに。

一、會員全部が會に興味を以つて、何かの助力を與へられん爲めに、近く書翰を送らんとす。何卒それが有効なるやうに。又會員勸誘の手紙をも多數出さんとする爲にも。

一、教育部、體育部、宗教部に、實際會の働と精神との理解ある働き人の多く與へられん爲め。

實務にある女子の立場

一事務員

以前は女子の職業と云へば教師とか看護婦とか、其他にも種々ありますが、まあ大抵は此の二つに極まつて居ました、そしてこの二つが他の職業よりも比較的容易に且つ安全に女子の獨立が保てゝ行けたのであります、處が近頃になりましてまた事務員といふ女子の職業に新しい種類が殖えました。諸官省會社、商店等に隨分需要が多く、從つて之を志す婦人も決して少數ではありませぬ、現に我女子青年會も女子商業科を設けた位、斯く申す私も其一人であります。此女子事務員等は官省、會社、商店等に出て如何なる事務に掌はつて居るかといふと、或は帳簿掛とか、タイプライターとかでありまして中就、タイプライターには多くの婦人が働いて居る樣であります。此事務員といふ職が前申した二つの職業と比べて都合の好い點は、第一、看護婦と比べて、看護婦は自宅を放れて病家、或は病院等に勤勉せねばならぬが事務員は自宅から通勤する事が出來る便利があります。第二、教師と比べると、都に住む事が出來ます、文部省の檢定試驗に合格し、或は英學塾其他の專門學校を卒業して漸く教師になつても最初の二三年はどうしても地方に行かねば都には就職口がありませぬ、あつても極めて稀であります、府立其他の認可のある女學校を卒業した者なら兎に角、認可のない宗教學校を卒業した者等には文部省の檢定を受けるといふ事が既に女學校の卒業試驗からやり直さなければならないので隨分面倒な事です。又教師より比較的自由な空氣を呼吸する事が出來ます勿論士人と町人の差ですから人から先生々々といつて崇められる事もないが然し教師となると隨分窮屈だらうと思ひます。生來謹嚴な、婦德の備はつた、

然も學問に達した人でなければ他人の子女の師表とは仰がれますまい。處が事務員は元來が人の師となるのが目的でないからこの點は氣樂です。收入に於ても廉潔を尙ぶ士人よりも町人の事務員の方が多いのは當然です、普通タイピストとして最初廿五圓から卅圓位、横濱のある婦人などは月に貳百圓からになると聞きますがこんなのは例外で少し熟練して來て物價騰貴の今日四十五圓から六十圓位が普通です この外會社、商店には年二回賞與といふものがあります、家庭の事情や本人の性質や何かで敎師に不向な人達は皆此實業方面に志すのです。私は淺いながら自分が得た經驗から、或は他から聞いた事から又女子事務員としての心得、又（使用者即或會社等の支配人などの女子事務員に對する希望、要求）等を述べて此道に志す人々の聊か參考に供し度いと思ひます。先づ第一、使用者として女子事務員に望む處は、

一、「服裝、化粧等餘り目立つ樣に華美に流れぬ事」家庭の人とも付かず、學生とも見えぬ婦人が屢々賤業婦と見違ふ樣な派手な服裝をして大道を濶步して居たのを見たが商館に出るタイピストであつたなどゝ云ふ事を聞きます。我々眞面目な職業に就て健實なる生活をして居る者は服裝等外觀も眞面目でなければなりません。

二、「勤勉な事」勤勉に一生懸命事務にたづさはらなければ仕事は覺えられませぬ、仕事が覺えられなければ役に立つ人となれない、役に立たなければ其會社には有つてもなくても宜い否寧ろ居ない方が宜い人となつて要するに邪魔な人となります。

三、「誠實な人」事務にかけても、其他の同僚に對しても誠實な人でなければ賴むに足りませぬ。

四、「事務に精確な事」學校でも過失錯誤は御點が惡いといひます、學校は御點が惡くて濟むが商業はそれで濟まぬ、一字の脫落や零の增減で非常な錯誤を來す事になります、それが爲め餘計な費用と時間を費し、取引先には不便を來す等、この事務に精確な

事はタイピスト或は其他の事務員として最も大切な事です。

五、「責任の觀念を持つ事」特に女子事務員に有勝な缺點で、例へば「これ丈けにして置けばあとは上役の人が何とか仕末を付けて呉れるだらう」とかいふ考へで終りまで其仕事を責任を持つて爲らない事です、これでは何時迄經つても一本立の出來ない厄介な人です。

以上は使用者の側から出る事務上に於ける希望です、被使用者はこれによく自分を適合させて行けば宜いのです。次に事務員としての心得を申します。

婦人の身として男子の中に立交つて同じ樣な仕事に從事して行かうと云ふのですから兎角すると動作が亂暴になる恐があります。婦人は婦人として何處迄も優しい謙讓の德を養はなくてはなりませぬ、然し他の男子の事務員達にお世辭を言つたり、諂媚をする必要はない、同じ事務員として同等の權利を主張して差支ないと思ひます。

又よく誘惑が多いといふ事を聞きますが此點に付ては婦人自身が餘程注意を要する事と思ひます、派手な樣子をして婀娜しい態度をして居ますと思はぬ誤解を招く事があります、誘惑されるのは一面から見て女子の方に隙があるからです、常に身心共に端麗に指して居る眞面目な婦人に對して如何に惡物でも戯談は云へますまい、結句男子に乘じられない樣に注意が肝要です。

朝に夕に眼に見、耳に聞く物は常に金とか掛引とかいふ問題のみですからともすると心迄が金、金といふ樣になつて神樣の事など留守になり易いのです之が最も危險な事です、我々は自由な天地に住む丈けそれ丈け神から放れてはならない、若し神から放れる樣な事になると取返しの付かぬ處まで墮落して仕舞ます、敎師などの職に居る人達よりも一層精神修養は大切です。

女子の事務員は男子のそれに比して淺學ですから我々は絶えず勉勵して自分から使へる者となつて折角開けたこの新天地を眞面目に開拓して行かねばならぬと思ひます、以上は私の感じた儘に過ぎませぬ、幸に幾分でも參考になれば嬉しいと思ひます。

和歌

○新年十首

年をほく門のみしめの一筋に榮ゆる三代を祝ふ今日かな

年をほく今朝の朝けの藥酒病なくして千代もへてしか

安三代にやすく日をへて報ゆへき功なき身のくやしからすや

大君の深き恵にうらやすく新年祝ふ我そ幸々

ゆつる葉のつゆりうけつる業をいよゝはけみて家を富さな

松たてし門もとゝろに三河人新年祝ふ歌そきこゆる

新年のよこといや言諸共に千代萬代とほきかはしつゝ

まちわひて曉つくる鷄の聲ものとかに年立にけり

大君は千代田の宮に千代ませと松竹たてゝ祝ふ今日かな

をさな子に差かへりつゝ年立はかふる衣もうれしかりけり

○禁　酒　海上龍子

さゝの葉の露はかりとてのむ酒はみたるゝふしの始なりけり

○倹　約

よろほひし賤かふせ屋の片おろしことそきて住身こそ安すけれ

○勉　強

おこたりし身をかへり見すなす業のすゝみかたきをなにかこつらむ

○精　進

夕されは過し朝をかへり見て一日一夜もおこたるなゆめ

○虚　偽

人にこひ世におもねりて信なき言の葉草はしけらすもかな

○因　果

我まきし種より出し鬼あさみ葉末のとけのうとましき哉

○無　我

身をおもふ心まとひにくるしむる身を捨てこそ心安けれ

○不　信

さかしりに人のまねして信眞なき行われは猿にかもにる

○知　遇

足らさるも足ると思へて世をへなは我まされる富人はなし

○観　念

あしきをもよきに見なほしすなほす直日の神にならはさりめや

ギヨン夫人傳

——ウフハム氏に據る——

森田松榮

巴里のノートル・ダム教會へ彼女はいつも馬車で行くのであつたが、或日ことの外の好晴な日だつたので、數哩を徒歩で行つた、尤も常の如く從者が一人附いてゐた。

セイン河の橋を渡ると、服裝のいかにも見すぼらしい男が彼女の前にあらはれた、彼女は物乞ひかと思つて、喜捨金を差出したところが、其男は嚴肅な態度で、信仰の話をはじめた。彼は三位一體の話をしたが、彼女は今迄、これほどの卓說は聞きもせず敎へられたこともなかつたと感賞してゐる。彼は、彼女が内心ひどく驚いたほど、彼女の性質を語つた彼女の信仰、彼女の慈善、また彼女の美德長所を、すつかり彼女に話してきかせてから、次に彼女の缺點を、またありのまゝに一つ一つ數へ立て、それから神は、單に赦されたとだけいはれる心ばかりでなく、眞實に聖潔といはれる心を求め給ふこと、また地獄を逃れる許りでは足らない、神は同時に我らの全き服從と、キリスト者の達し得べき至上の純潔と高さとを、求め給ふことなどを諄々と彼女に說いた「神の靈は彼の言葉を證し給へり」と後に彼女は書いた。彼女は默然として、深い感謝と尊敬を以て、この人に耳を傾けてゐたが、非常に強く感動したのであつた。

屢々從來にも仰いだ攝理の御手を、彼女は今又まのあたりまざ〳〵と見た。彼女はこの時全く神の犧牲の祭壇へ身を供へた。全然、永遠に、神のものとなるべく、彼女には此時何等の心殘りもなかつた。これはたゞに願望ではなく、決意であつた、この後

彼女は烈しく苦しい試煉に幾度か遇つた。然しこの決意は、何分の動揺をも感じなかつた。

人にははかられないことが思ひがけぬ時に起るものである。然しギヨン夫人に突然起つたものは、我人ともに意外中の意外なものであつた。激烈な天然痘は容赦なく彼女を襲つた。まだ豫防法の發見もなかつた時代である。彼女は日夜生死の境を彷徨した病床に侍した人々は彼女の容態の險惡なのも忘れて、一代に名を馳せた美が無殘なすがたになるのをひたすら嘆いたほどであつたといふ。見舞にくる人も來る人も彼女の顏を正視し得る者はない程であつた。彼らは彼女にふりかゝつた禍を心からなげいた然るに優れた美の持主であることを充分自覺してゐた彼女は、反て感謝した。而も心からの感謝であつた。わが外面の美、われにとつて力ありし誇の根はかくも聖手によつて除かれた。聖主にゆく妨は去られた、と彼女は考へたのであつた。美を誇る自分の心と、人々が其美を嘆賞する時に感ずる滿足とに浸ることから、自分の心は全く自由になつた、かう考へた彼女は、或人々が彼女に一種の酒を贈つて、痘痕を薄くし、顏色をよくするに特効があるからといつたにも拘らず、又彼女自身、その有効なのを他の實驗者の例に徴して知つてゐたのにも拘らず、一滴も用ひなかつた。

さしもに、人々の嘆賞を集めた、輝やかなりし花の顏は、數へて廿三歳になつたばかりの彼女から、永久に去つて了つた。彼女は一日鏡を見たとき、「もはやありし昔の我ならぬ」我を見出したのであつた。

すつかり全快した時、彼女は誇心の根絶を我と我にたしかめる爲に、以前自分が往來し馴れた都大路を躊躇なく歩いた。はかない誇に得意であつた以前の自分は、もう今日は存在しなかつた。

彼女は病苦に責められながらも、前の樣に裏の苦しい戰をしてゐた。否裏のみならず境遇上の苦しみも甚しかつた。彼女の夫は不健康だつたので、姑が彼女の世話をするのであつたが、彼女に對して憎惡

の外何物も有たなかつた姑は、彼女を虐遇すること甚しく、この大病も必要な手當を缺いた爲に、一層病勢は烈しくなつた。姑は嫁の爲に、自分の知合の醫師の外、處方を書かせなかつたが、その醫師は遠くに住んでゐて、其頃ではギヨン邸まで一日路の旅を要したといふ。ギヨン夫人は病床に在つて、嘗て一度も苦痛、不平の聲を漏したことがなかつた。私は全く神に自分を委せまつゝてゐたので、衷なる平安は、さしもに大きく、烈しい病と危険との間にあつても、自分を忘れるほどであつたと彼女はいつてゐる。

嫁が危篤の時ですら酷であつた姑は、彼女の健康が恢復するにつれて「我夫の愛情を我より離さんとの殘忍なる努力」と夫人がいつてゐることを續けていつた。彼女の容貌の既往と異なつたことは、夫の感情にも影響を與へた。「人々は變りぬ。されど神は變り給はざりき。あゝ我神よ、汝のみ同じく在したり。汝はわが外の十字架を増し給ふ時、內なる恩寵と幸福とを増し給ふことを止め給はざりき」と彼女は書いてゐる。

彼女は此時六歳と四歳と二歳の三人の子の母であつたが、彼女の病に續いて、四歳の次男は、同病に罹つてこの世を去つた。「この打撃は我心を碎きぬ。我は壓倒されたり。されど神は我が弱きに於て我に力を賜ひたり、我は次男をばいと愛したりき。されど我は彼の死にいたく苦しみつゝも、涙をば流さゞりし程に神の聖子をばいと明らかに見たりき。我は神へ彼を捧げて、ヨブの言りし「主與へ主とり給ふ主の聖名は讃むべきかな」といへり。

彼女が詩歌を試みたのはこの時代からであつた。左に拔いた一節はこの時の經驗をうたつたものとも思はれる。

苦しめ給ふことなく、主は慈しみ深し、
わがいとかなしきときにも、
われは主のめぐみの賚の、
我がうちに滿ちわたれるをしる。

自慢話

西伯利行連中

青年會館三階の一室に何だか騒々しい話聲がする耳をすまして聴いて居ると、西伯利行の荷物がお互に自慢話をやつて居る。未だ拵へて間もなささうな長コートが周圍を見廻し、

「ヤア皆さん御苦勞様、よくお集りですね、私は抑々米國で有名な仕立屋の手にかゝり、日本に傳道するとて來た獻身的な婦人と諸所に旅をして、三年間も一緒に居たが其先生が一日私を呼出して、今度西伯利の嚴寒に何か暖い物を送り度と思ふが自分の所有中お前ほど適當な物がないから、別れは辛いが何も彼も人道の爲だと斯う云はれたので、やつて來て此處に居るが、多分ロシアのクリスマス迄には浦鹽に着くだらうと、まあ辛棒して居るが、中々責任も重い」

「ナニお前さん許りが、そんな重大な任務を佩びて行くのではあるまい、私などは到底お前さんなどの出來ない仕事をするんだよ」

と新しいフク〱した毛布が唸り出します。

「何と云つたつて、私ほど重寶がられる者はあるまいよ、マア、この綿の高い時に、私ほど役に立つ者はありやしない」

と蒲團が段々と擴がり出すと、

「エヽ邪魔なこの狭い場所に、少し遠慮をなさい」

と、隅からシャツとヅボン下が咎める。

「いくら蒲團や毛布や外套があつたとて、私共の様な肌身につく下着がなかつたら、凍死は免れないよおまけに私共は是迄隨分皆の世話をして來たが、度々湯に這入つて、シャボンで洗つて來たのだから清潔なものさ。子供だつて病人だつて、吾々を好きがらない者はありやしない、吾々連中のこの大勢を御覧なさい、この室のまあ半分は吾黨のシャツ、股引靴下、ペティコート、腹巻が一番數多いぢやないか

之からおしても吾々の人望さが知れるよ」

「痛い／＼、暑苦しい、少し息をさしてくれないと窒息するよ」

「エヘン、皆様方はいくら御自慢をなすつたつて、古着に屬していらつしやいませう、今は新時代で新しい物が喜ばれます、私共はまだ拵へてから一度も人の肌に着いた事はありません。このフランネルは三越の倉庫から出したばかり、こちらのは西洋から來て今迄簞笥の底に大事にしまはれたものです、何と云ふても新しい物に限るぢやありませんか。こちらの立派の洋服さんは、如何に絹の裏地で、外が暖かいものだと云ふても、あなたの流行は七八年昔でしたらう、日本の田舍でこそ威張られるが、外國の市に行つたら物笑ひです」

と云ひつゝ頭を出したのは新古の靴です。

「諸君は西伯利で最も入用の物は靴だと云ふことに氣の附かぬは笑止千萬、浦鹽あたりに商賣して居る日本人中に靴屋が多いと云ふ事からしても、吾々の勢力の如何に偉大であるかを現はして居るではないか、それだから吾々の御主人もまあ御苦勞だが行つて來てくれとお遣しになるのだ、吾々共だつて米國生も、日本生もあるのに皆同盟して此處にやつて來た次第だ、足に履く物だと思つて踏付にするのも失敬ぢやないか、チト遠慮をし給へ」

「皆さん私共は赤兒や子供の爲にとて、毛糸で編まれた組合であります。私達は別に自慢する事はありません、生れを云へば英國やカナダ濠洲などの羊毛から出たもので、それが渡り／＼つて日本に來て、女學校や婦人會の手に送られ、奥様お孃様お女中方が暖い室や、寒い講堂や、様々な場所で編上げなすつたものです、しかもまあこの蝦茶と黄色の碁盤目に出來た肩掛を見て下さい、之は慈愛館と云ふ婦人救濟所に居る、病氣で指先のきかない婦人が拵へたものです、此方の股引は外國の片田舍に居る百姓のお婆様が神様の事を思ひ乍ら拵へて、日本の先生に送つて下さつたのです。この白の赤坊の靴下は女學

校の一二年生が拵へたのです、中には餘り綺麗でないのも居りますが、吾々を送つた人々の精神は皆美はしい暖いものでございます」
之を聞いて木綿や絹の荷物連中は勇氣を出し。
「まあ、毛織組合の皆様がさう謙遜におつしやるので、私共も少々口をきく元氣が出ました、春か夏であれば吾々が一番歡迎されるのでせう。但し零度何十度と云ふ西伯利に出掛ける場合、何だか役に立たぬ氣がして遠慮もしますが、私共は又それ／＼の働き場所があるに相違ないから、行つてこいと云はれて派遣されたのです、前掛でも襦袢でも雜巾でもよいから働けと云ふ言葉に勵まされて出て來ました、どうぞお見捨なく何處かの隅に置いて下さいまし」
「まあ、そんなに謙遜なさると恥しくなりました」
と洋服連中が隅々から云ひ出します。
「ほんとに、斯うして西伯利にお手傳にあがるのに誰が一番、彼が落第と云ふ事はありません、下着もなければ困るし、上着もなければ又困るし、毛織物許りでも洗濯が困るから、矢張り木綿物が必要だし體の惡い人には絹ざはりが入用だし、靴があつても冠り物がなければ、之も困難で、耳の凍傷を防がれません、マア、皆さんは北海道から九州の隅迄を代表して來て居られるのです。蒲團も毛布も、古いのも新しいものも皆入ると云はれて來たのですから、お互に仲よく出立しようぢやありませんか、斯う話して居るうちに大箱小箱、大包や小包が、ドシ／＼と室の中に這入つて來ました、
「やあ又道連れが殖えるお互に歡迎のしるしに、少し窮屈だが席をあげやうぢやないか」
と重い外套が發言すると、
「餘り廣がり過ぎて濟みませんでした」
と蒲團と肩掛がお詫をする、
「私の上におのりなすつても、皮ですから大丈夫です」
と靴が申込む。
「それぢや私も何處かに坐らして下さい」

とお手遊や繪本、書物、タオル、眞綿、リボン、シヤボン等がニコ〳〵と出て來て、室の窓際に坐を占めて居る、其内來るは〳〵包がドン〳〵殖え今日では確かに立錐の地もない程堆積されて、西伯利行を待つて居る、隣室の事務室では幹事や書記が品物の目錄を認め、諸所より來る寄附金の整理に忙しい、下では東京青年會がミシンを使つて、前掛、ペテイコート、ドロワース等をドシ〳〵拵へて居る、此等は皆近い中に汽車や船に乘つて浦鹽に向ふのである。

○東洋英和女學校青年會新會長。 會長內田もと子氏は健康勝れざる爲辭任、副會長たりし高木喜美子氏會長に大貫きみ子氏副會長とならる。

東京基督教女子青年會館では

十一月下旬に至り本會館內諸室を大阪淸水谷高女同窓會、日本基督教婦人傳道會例會及府下中澁谷教會婦人會等の爲に使用されしことを深く悅んで居ります、なほ婦人諸團體の爲めに益々會館が善く用ひらるゝやうにと希望して居ります。十一月中一日平均三十五名、總數壹千五拾名の人達が出入されましたことを記して會の發展の一部を御知らせ致します。

十一月廿九日には佐藤隆子女史司會の下に英語社交會を開き御滯京中のファネス女史に御講話を願ひました、女史は專門の天文學の外に社會事業に興味を有せられ特に當夜はアメリカに於る兒童衞生巡回產婆事業等に關して實例多き御話でした。今後此英語社交會を組織して役員を置き、一つの良き婦人活

動の機關となしたいと云ふ發議にて司會者より三名の指命委員を指定されました。

十二月二日から六日まで五日間有名なる個人傳道司導者ブックマン氏の集會が豫定通り擧行されました、今は世界が政治、教育、宗教其他各方面に一大新紀元を開きつゝある時に我國でも舊來の陋習を破り世界の進歩に加はりたいといふ場合、此の先生の來朝を得て殊に教育と云ふ大責任を負ふ姉妹等の爲集會を開き得られましたのは必ずや無意味の事でないと思ひ感謝して居ります、市内ミッション女學校九ケ所より六拾五名、官、公、私立學校十四ケ所より五拾名其他女子教育に關係ある者二十名餘、一日八拾名平均の出席者でした、十二月十五日日曜日には又協友會と云ひ此の八十名の各自が一名の未信者を誘ふて來會し再び同師より教を乞ふことになつて居ります。

十二月五日東京委員會を開き園遊會純益金中金壹百圓をシベリヤ避難民兒童救濟衣類製作の材料にあつることに決定しました、此の委員長を尾澤靜子夫人に依頼し其他數名の委員を置きて着々事に當りロシヤのクリスマスに間に合ふやうにと大活動中ですすでに東京青年會にては以前慰問部資金中四拾圓の殘金を材料として子供の襦袢モ、引前掛等を三寄宿舍の生徒、英語、料理科の生徒其他有志者にて製作し百品程出來上りました。此の年の暮の多忙な時に時間を作つて氷の中に生活する兒童の爲を思ふて作つたと申すのは實にクリスマスの良い精神を表はして居ることゝ思ひます。御家庭にあつて時間の都合よろしき方々には第二部の製作に御助力を願ひます。

前號で園遊會純益金壹千三百拾四圓拾壹錢と申しましたが其後金壹百三拾二圓八拾五錢の追加があつて都合純益壹千四百四拾六圓九十六錢と云ふ感謝すべき好成績があがりましたから改めて御報告致ます

此の報告を作つて居る時にはクリスマスの準備で活動して居ります、今年は特に自分等の悦を分ちたいと云ふ精神で電話交換手、事務員、産婆、看護婦さん等を招き祝會をしたいと云ので若き姉妹等が一生懸命其準備をして居ますいづれ二月號に出ませうから御待ち下さい皆様よき眞の新しき年を迎て益々御元氣と信仰に滿されますやう御願ひ致します（加藤）

大阪女子青年會の昨今

大阪女子青年會は巧みに各階級の人々を集會に集めるさうだが、何か面白い經驗や感想があるだらう新年號の爲めに書いてはどうか、との葉書を編輯部から頂いたのは十二月の初であつた。丁度昨年最終の委員會の爲めに幹事共は力をつくして、報告をつくつたり、統計を作つたり、會の現在や各組の狀態などを圖にしたりして準備怠りなかつたのに、秋から殘つて居た惡性感冒はしゆうねくまだ委員方をおそつて居て、充分の集會を見られなかつた折も折とて輕い諷刺を感じてほゝ笑ずに居られなかつた。

大阪女子青年會の現在は取り立てゝ記す可き何物をも持つて居ない。然し大正七年四月創立に着手以來、兎にも角にも憲法を制定し、各部の計畫が立ち小さいながら、一個の女子青年會としての組織なりし今日に至る迄、神の御恩寵の格別に大なりし事を一同と共に喜んで頂き度い。特に少數にして最も、働力なる幹事等を助くるに、熱心にして同情ある委員、多くの特志働人、會を愛し、常に他の爲めに何事かなさんとの精神にもゆる年若き會員、會友等を以つてし給ふ主の御恵みをもあはせて感謝して頂き度い。

現在、事務所に於て開かるゝ集會及組は臨時集會をのぞいて、日曜午後讃美禮拜月二回、日曜午後講演會月二回、聖書研究會四組、英語研究會六組、西洋料理一組、社會研究一組、クラブ三、生花一組、ピアノ一組、日曜學校五組等で、出入する人々は、學校敎師、同卒業生、學生、婦人事務員等である。

市內各女學校敎師中には必ず一二名以上の同情ある知人を有するにより、其人々によりて、敎師、卒業生、學生の紹介を受け、又四月創立當初、市內の重なる商店、會社、銀行等に就きて、使用婦人事務員等の數を調査し、もれなく趣意書を配布した結果

として多くの婦人事務員中の知人を有するやうになつた。

尚、各組及びクラブより代表者一名を擧げて委員とし、毎月壹回集會して組及クラブの精神、生徒の動靜其他凡てこれに關する研究をして居る、そして組の生徒の增加を計つたり、會員募集に努力したりして居る。又前から會に出入して居る人々にはよほど、會が自分のものらしく感ぜられるやうになり、新しく來會せらるゝ人々に暖い空氣を感ぜしめやうとつとめて居るらしく思はれる事なども絕ず誰かと訪れたり集會にも集つて來る原因の一つではないかと思はれる。

又特に集會毎に、集會の性質、演題、講演者の種類等によつて、招待す可き人々を考へ、成る可く、同程度、同趣味の人々を集める事に苦心して居る、これも好結果のやうに思はれる。

本年は、會員、會友の中に女子青年會の精神を高調し、眞の理解を以つてこの世界的婦人運動に參加せんが爲め、この事務所に出入する人々の多くならん事を希望して居る。特に讀者諸姉の御加禱を願ふ。

（幹事　山本琴子記）

東京青年會の過去一年間

（一）今春會員募集運動の結果四百名餘增加、現今總數約七百五十名。

（二）寄附金八百四拾圓餘、園遊會純益壹千四百四拾六圓餘。

（三）本會主催諸種集會數四十回、聖書組數十二、英語科生徒數百名餘、現在六十五名、受洗者十二名。

（四）タイプライター科新設、西洋料理講習會三回、王子町巡回產婆事業開始、夏期修養會代表者選出、シベリヤ出征兵士慰問品及避難民衣類製作等。

（五）幹部職員二名增員。

落穂集

□何等の慘　新嘉坡に在る日本婦人の大多數は娼妓である、マラッカ、ペナン等の海峽殖民地には日本婦人が一千三百名もゐるが、その千人餘りは娼婦で黒人醜業婦と競うて店を構へてゐる——と、布川靜淵氏は前提して語った——

「私が沈沒する前常陸丸に乘つて船が香港に着いた時、一人の女が乘りました、女は熊本の者で

△別府溫泉に奉公中、男の甘言に乘つて、新嘉坡に賣られて行く途中それと知つたので寢衣のまゝ海中へ飛込んだ、小舟へ飛込んだので生命に別條なく、官憲の手を經て日本に送還されるのであった、時は二月、その寒空に例の寢衣一枚で顫へてゐました、この女の爲に船客は金を集めて贈りました

△哈爾賓附近にも一千三百餘りの日本婦人が居ります、その內娼妓が六百七十、支那人の妾が百六十藝妓が四十一、露國人の妾が十九といふ悲慘な數を示してゐます、ナヽハルにゐる日本人中、何の職業が一番多いかといふに、貸座敷業者九百九十戶、娼妓千三十六、これです、ニコリスク百六十五人中の五十名、ハバロフスク四百四名中の二百十一名

△ブラゴイ二百名中の五十七名、浦鹽九百九十名中の四百四十名、これが醜業婦の數です、そしてこれは屆出た丈の數で、事實はその三倍だといふ事です、彼等は薄い板切れで小家を仕切つた九尺四方位の處に一人宛居て、入口には白い布が一枚垂れてゐる丈け、相手は支那や露國の勞働者です、悲慘ではありませんか。

（十二月七日の萬朝報より轉載）

□癈兵千萬死者八百萬人　平和の曙光は輝き全世界は希望と滿足とに滿されつゝある今日、交戰國に於ては永遠の悲哀の裡に閉されつゝある寡婦孤兒、癈兵が實に夥しいのである。過日萬朝報に揭載されし、參謀本部長瀨編修氏の談には「まだ確數を得るに至らぬが敵味方を合しての死傷者は二千萬を下らず、この中約千萬人の癈兵

と八百萬人の死者を出し居る故寡婦孤兒となれる數は夥しいもので各國共に永年之が爲に莫大の費用を出さねばならぬ事勿論である英國の如きは戰爭の初期に一日三千萬圓を要したのが末期に至つては七千萬圓宛の戰費を支出したがこの中から戰死者遺族の救濟に繰り出した金は素晴らしいもので

△米國の如き　は戰死者の數少きに拘らず一日一億圓平均を要し同じく莫大な金を遺族救護に使つてゐた、獨逸では佛獨戰爭の當時から癈兵と寡婦孤兒の後始末に就いて講究し例へば停車場の切符賣りは必ず此の癈兵を當てる等の方法を執つたもので、今回の如きも早くから

△彼等の職業　に付いて政治家、學者の間に研究され、各國皆な此處に意を注いでゐるが、如何に基敎の盛んな國でも何百萬といふ婦人と子供の始末については種々の悲喜劇が起るであらう。

□凡人會　ブックマン敎授の東京に於ける各所の集會は多大なる奬勵を與へたり。東京新橋敎會にては凡人會が祈禱と努力に依つて非凡なる　働を爲し得ると云ふ精神を鼓吹され、今回凡人會を組織されたり。

□上海日本基督敎會建設式　十二月十五日植村正久牧師は上海に於て敎會建設式並に牧師役員就職式を擧行されたり。同敎會は盛んなる信者の　働により、今回一個の獨立敎會として今日の運びに至りしを慶賀す。

□印度女子青年會　十二月中旬印度に渡る可き幹事三人、本部に投宿せり。今春は紐育より幹事養成につき多年經驗を持たるゝミスウキルソンは印度に赴き幹事の學校を組織さるゝ由、目下印度にては英米幹事三十六名ありと。

□講和使出發　諸新聞は十二月十日出帆の天洋丸にて出帆されし講和大使一行の記事を載せ、時局に對しての輿論を連日掲げた、只に政治上のみならず、宗敎々育其他の諸機關が世界改造の爲、種々の國際的會議を開く事であらう。吾人は刮目して是等の動靜を待つ可きである。

□**米國の大募金**　前誌に紹介した米國七個團體の大募金一億七千萬弗は擧國一致にて其效を奏し、二億五千萬弗を得たりとの報に接す。以て如何に此擧の盛なりしかを知る。同時に其裏には熱心なる祈と非常なる手配の準備の行き渡りしかを伺ふに足るべし。

□**米國女子青年會**　大正八年の春は米國女子青年會は特に外國部發展の爲、運動を開始するに至るべしとの報を得たり、駸々として倦まざる努力に於ては大に學ぶ可きなり。

□**路加病院看護婦歸朝**　同病院日本人看護婦は米國より看護婦到着したるに付、去月四日皆引上げたり兎も角日本人を代表して親切に同情を以て病兵を看護し、彼等も非常に其好意を喜びたりとは、吾々日本婦人として感謝の至なり。

□**日支少年の義捐**　桑港來電によれば彼地日本人及び支那人少年の一千名は各五弗宛を聯合軍隊慰問資金に寄附せりと。これは前誌に報じたる如く世界七個の團體が一週間に三億四千萬圓の大募金をせるが少年少女が進んで之に參加し一人の兵士に對し最低額十圓を贈らんと或は走り使をなし、或は新聞を賣り、人の荷物を運び、庭を掃除し、來年の暦を賣り、道路の掃除を爲すなど何とかして自分にて働き一人前の分擔の高を得んとした。この働をなす少年を（勝利の少年）少女を（勝利の少女）と云ひ各々之を名譽にして一生懸命に此一週間を働き、未見の聯合軍人に獻げんとした、其の標語は（百萬の戰士の背後に百萬の少年あり）桑港に於ける日本人及び支那人の少年一千名も此擧に加つて勝利の少年となつた事は喜ぶ可き事である。（開拓者より省略轉載）

消息の二

○高瀨しな姉　東京女子青年會の西伯利に贈る物品の取扱ひ又仕事監督のため暫く同會にて執務中。

○ファーネス女史　十一月廿九日東京青年會にて講演する。

○神田乃武氏令嬢　東京青年會々員なる同孃は昨春實業家豐川良平氏令息と結婚する。

○寺田初代姉　十一月中七歳になる愛兒を失はれたり。御良人は英國留學中。斯る御不幸に遇はれしも信仰により大なる慰安を得られ心身共に御健全なり。

新刊紹介

M. M.

望の曙（六十五錢）　小林清三郎譯

子を喪つて悲哀に沈んでゐる母親を慰める良書はないかとは、屢々人から受ける問である。二三の書がなくはないが、難かし過ぎたり、簡單すぎたりして、どうも丁度といふのがなかつた。然るに此度、この要求を滿し得る良書が和譯された。時代は聖パウロの頃、使徒行傳や、福音書の記事があるし、聖書の人物も特徴をもつて叙されてゐる。ローマの將軍の美しい賢こい夫人が、富と勢と譽と、夫の愛を一身に浴びつゝ、子を喪ひしより滿たされざる孤獨の心、主キリストを信じて、復活の望によろこび輝く生活にうつるありさまローマに捕はれし英國の相思の貴公子と王女との變化多き生活、初代信徒の熱烈な信仰と、聖い交、聖パウロの有力な傳道、聖ルカの忠實な奉仕、讀み來り讀み去つて、興は盡きない。作者は、今度の大戰爭に、二人の令息を失はれし、モリス・ジェラード氏である。子を喪ひし親の心をうつすのに、氏ほど適當な人は少なからう。絕望にかへて、復活の望を、涙にかへてよろこびを、悲哀にかへて、慰めを與へることとは、主キリストに在つて、此望と信仰とを有てる氏にして、はじめてよく、爲し得やう。自分は此書が日本に紹介されたことを心から喜ぶ。未信者にも、信者にもよい。譯文は忠實にして、流麗である。

守るべき日曜日（十五錢）

偉人、學者等の傳記を見ると、古今を通じて、賢母の感化が多いその大きな感化の中で、子供に安息日を嚴守させた母の感化が隨分多い。ところが、日本では、信者の家庭にも、安息日嚴守の美風のある家は、あまり多くない。この本は、父母にも、靑年男女にも、是非讀んでもらひたいと思ふ。色々の方面から、よく論じてあるから、何人をも益することと考へる。

育兒の栞（六十五錢）　マイルス夫人著

ロンドンの小兒科病院に、篤志看護婦として、七年實驗を積まれ、其後宣敎師夫人として、日本に在住し、日本で令息を育てられた夫人が、姙娠から、精神敎育まで、病氣の手當も、料理法も、痒い所へ手が屆く樣に、親切に育兒に必要なことを書かれた書である。赤兒を行李に入れて育てることなどは、日本人が氣がつかない中に、多くの西洋婦人が、巧に實驗してゐることである。專門の知識が充分ある上に、實驗を基礎として書いたものであるから、母親にはなくてならない書物である。結婚の贈物などにも極めて佳いと思ふ。

以上四冊とも築地八番、基督敎興文協會發行であるが、基督敎女子青年會へお申込になれば同會で取次ぐ。

友垣

○

雪の國にて　某女

今朝、女子青年界(十一月分)を他より送られ、之を拜見すると共に、大いに私共婦人の實行の足らない事を、河井先生の御話に於ても、又種々と皆様の御活動振を伺ひましても、敎へられ、又勵まされました。誠に些少では御座いますが、慰問品として何かと思ひましたが、田舍の事とて、失禮では御座いますが、爲替一葉同封致しましたから、何卒何かの役に御用ひ下さる様御願ひいたします。

○

鹿兒島　青山ヒデ子

多分來年の二月頃には、大阪へ轉居の筈で御座いますから、必ず御目に懸られます折があると信じて居ります。移りました時分、御知らせ申上げますから、先生も御下阪の節は、御知らせ下さいませ。其節何もかも御話し申上げます。さて別封金貳圓誠に少々で御座いますが、クリスマスの御しるしまでに御送り申上げますから、よろしく御使用下さいまし。

○

紐育幹事養成所　横澤つぎ

昨夜は紐育タイムス(新聞社)へ行き、仕事場を見、驚いて歸つて來ました。私共は新しい敎室へ入るのです。十二階の昔物干場になつて居た新らしいのです。立派なのが出來ました。それに新しい圖書室です。一階では昔の事務室が、電話室になりました。これも電話の設備がずつと大きくなつたからです。

本部幹事ミス、ウヰルソンは、來年早々印度へ幹事養成所を作りに行かれる事になりました。日本にも是非、斯様なものが必要に思はれますが。「青年界」の一女敎師の經驗と云ふのを見、上野様と思ひますが、私共が皆同じ様な經驗をすると、熱々昔の事思ひ出しました。上野様も衷心な方で御座いますのね。

近頃は日本の秋が思はれてなりません。時々坂本様の彈るゝ琴の音を聞いて、堪えられぬ事があります。

○

ウラジヲストック　脇みさ子

當地の敎會も日々盛に相成り少數とはいへ毎日曜日に勇しく集り居候日曜學校は最早五十名以上と相成オルガンも取寄る事に相成居り候是も内藤氏　非常の御盡力に御座候、此際共非々々女子青年會の當地に於ける御はたらきあらん事を日夜祈り居り候何卒御役にも立ち不申候へ共御用の折には御遠慮なく御申付け被下度切に御願申上候。

○

ウラジヲストック　森まさの

月に一二回位日曜日に自動車二臺にのれる丈の子供方を御伴れ申し赤十字病院兵站病院の患者を慰問に參り讃美歌でも歌つて貰ひます事になりました次は赤十字病院の看護婦諸姉數人づゝを私共信者の家に日曜の午後半日に御遊びに來ていたゞく様に致しました十二月第一の日曜日には第一回として自動車一臺にて七人にて御出下され御互に大喜びいたしました。御馳走は別に何も致しません只ほんの御菓子果物おしるこ位でしたが皆様は御滿足の御様子でした此次は脇様で御招き申上る事となりました、米國赤十字病院に働かるゝ日本の看護婦方をも御招き申上る心得てしたが十二月四日に引上げ日本に歸へらるゝ事となりし由々殘念に存じます、御約束申上ました通り私も女子青年會の會員となります敎會費金拾圓御受取り下さいまし。

「女子青年界」定價及廣告料

定價及郵税	內地	海外
一部	金八錢	金拾壹錢
一年前金	八拾錢	金壹圓貳拾錢

廣告料	一回掲載
一行	金五拾錢
四分一頁	金五圓
半頁	九圓
全頁	金拾五圓

年極又は回數により割引有

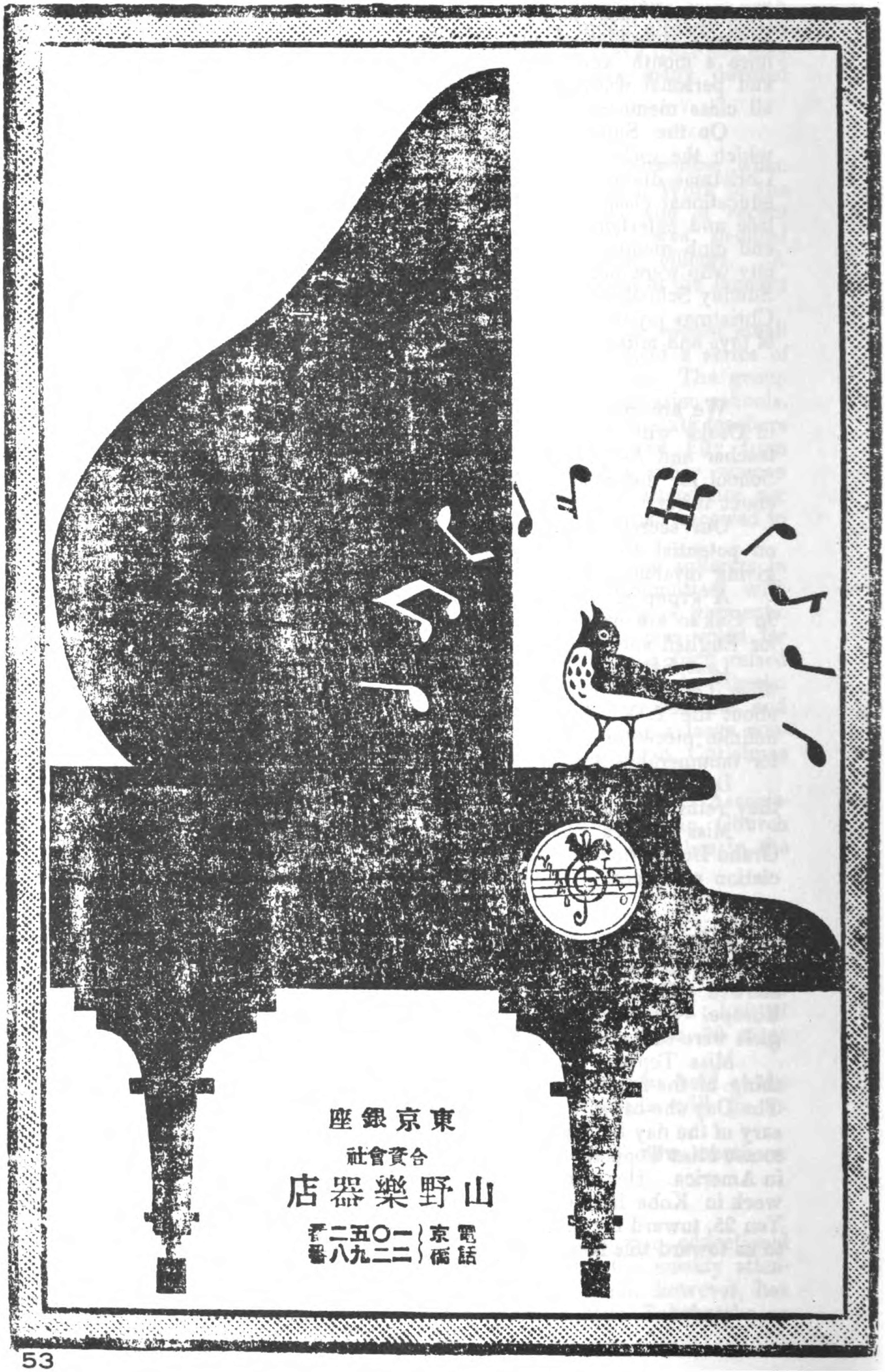
大正七年十二月廿八日印刷納本
大正八年一月一日發行

發行所　神田區北神保町十四番地　日本基督敎女子青年會　電話本局四九八八　振替東京二三七二三番

發行兼編輯人　河井道子　神田區北神保町十四番地

印刷人　前川吉次郎　芝區[illegible]和泉町七番地

印刷所　右同　三秀舍


東京銀座
合資會社
山野樂器店
電話 京橋 一〇五二番
二二九八番

Some of the girls who were at the Koroen Conference met with Nakaji and plan to meet every month as the "Koroen Club." An advisory commitee of one member from each class or club meets once a month and helps with suggestions as well as membership and personal work, and on Thanksgiving day they gave a party for all class members.

On the Sunday before Christmas we had a vesper service in which the girls took part with singing, violin and piano music. A Christmas dinner party was given for our twenty one religious and educational class teachers. We also had a Sunday School Christmas tree and entertainment. A Christmas party was given for all class and club members, and a New Year's party for girls boarding in the city who were not able to go home for the christmas season. The Sunday School children have been bringing their pennies to help give Christmas joy to less fortunate children, and we are sending quite a box of toys and mittens to Siberia.

Kyoto

We are very happy to have Miss Hayashi of Poople's Jo Gakko in Osaka with us. She is fitting in splendidly as half time language teacher and Association secretary. She has already begun a Sunday School for the neighborhood children, the average attendance being about thirty.

Our secretaries are putting in all of their spare time in calling on potential Association members and enthusiasts. Mrs. Shimbara is giving invaluable assistance in this work.

A gronp of seven government school teachers from the Dai Ichi Jo Gakko are meeting every two weeks at the Association Residence for English songs and a social time.

Last Saturday the secretaries were at home to the graduates of Miss Tsuda's school living in this city. They are most enthusiastic about the Y.W.C.A., some of them already offering their services for definite pieces of work. For these we are deeply grateful, and long for innumerable graduates of such schools!

Dr. and Mrs. J. A. Macdonald were guests of the secretaries as they returned from China on their way to Tokyo.

Miss Monica Sharland, formerly intimately connected with the Grand Duke Nicholas' family, has been making her home at the association residence.

Kobe

Early in December we very suddenly got up a big meeting for the young girls in the city. Mr. Yamamoto of the Y.W.C.A. spoke and showed the pictures taken by him on his recent trip to America and Europe. There were some fourteen hundred present and more than 200 girls were turned away at the door.

Miss Topping went to Hiroshima early in December to see something of the families whose sons and daughters are now in California. The Day she called on one of these families happened to be the anniversary of the day he departed for America. The mother was very happy to see Miss Topping and to hear of her son from one who had seen him in America. Her visit to Hiroshima will result in efficient emigration work in Kobe in the future. Miss Nannie B. Gaines has contributed Yen 25, toward the emigration work. This is the first gift to be made to us toward this needed work.

national secretaries' residence. She has many interviews with both Japanese and foreigners, and everyone is very much pleased to see her so well, and full of good will to all mankind. We trust she may have a very safe voyage to America, where she has many devoted friends.

Tokyo Association

The English Speaking Society met on the 29th of November, when Dr. Furness of Vasser College spoke on "Public Health Work in the United States." Miss Sato of the Friend's School and a recent graduate of Bryn Mawr College presided. It was decided that the society should be organized and have regular officers. A nominating Committee was appointed and asked to report at the January meeting.

Mr. Buchnan, who has come to Japan to conduct special small group meetings in the interest of personal work, held a series of meetings in the association the first week in December. The group consisted largely of teachers in both government and mission schools, with some pupils from the normal schools. There were sixty teachers registered from nine different mission institutions, and fifty from fourteen government and private schools, and twenty other women engaged in similar work among girls. The average attendance per day was eighty. Many spoke of the inspiration they had received to do more intensive personal work.

In response to frequent appeals for clothing for the sufferers in Siberia the Tokyo Board has appointed a Special Committee, with Mrs. Ozawa as chairman, take charge of the making of garments. One hundred yen of the proceeds of the garden party was voted for materials, and besides this there was Yen 40 left of the fund raised in October for the making of socks for Japanese soldiers in Siberia. One hundred garments have already been made by members and friends of the Tokyo association and we hope to have a large consignment ready to send to Siberia in time for Russian Christmas which comes in January.

During the last month an Osaka Girls' School Alumni Association; the Women's Missionary Society of the Presbyterian Church in Tokyo; and the women's society from one of the churches in the city held meetings in the association building.

Yokohama Association.

Miss Many Baker, our General Secretary, is on a month's leave of absence in order to rest and regain her strength.

Since September 12th we have devoted two afternoons a week to Red Cross Work. We have rolled 743 badages by hand; knitted 102 absorbent sponges and four pairs of socks; and made 20 mops and 100 handkerchiefs.

On December 14th a Women's exchange bazaar was held at the association at which time tea was served. The proceeds will go toward the running expenses of the association.

We are just about to begin a campaign for 150 new members. This campaign will close February 28th.

Osaka.

Sickness has greatly affected the attendance at our educational and Bible classes. With an enrollment of seventy, the weekly attendance has averaged only forty. The Sunday School, however, has held its own, and some of the older girls with Miss Takabatake as leader have organised a Rainbow Culb.

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Volume XVI January 1919 Number 1.

On the 1st of December Mr. Soichiro Asano, President of the Toyo Kisen Kaisha, and his wife made a gift of Yen 10.000. to the Endowment Fund now being raised by the National Y.W.C.A. in Japan. Some years ago they gave Yen 1.000 to the Tokyo Building Fund, and a year ago they gave Yen 200 toward our emigration work in Yokohama. Their increasing interest in the association is largely due to Mrs. Imanishi and to the Misses Asano, who returned to Japan last summer. The National Committee is greatly encouraged by this gift, and they will work harder in order to complete the fund which will amount to Yen. 100,000.00.

The drive which took place in America during the week beginning November 11th for $170,500 000.00 for the seven organiz tions engaged in war work was most successful and $205 000,000.00 were raised. It is a great inspiration to us in the Far East to know that the interest in the war work being done by difference agencies is very much appreciated by the public abroad. As an affiliated branch of the World's Y.W.C.A. we feel very grateful to all the friends in this country, both Japanese and America, who contributed to the success of this drive.

The National Committee has decided to send three workers to Vladivostok to begin our work there New Year. Miss Aya Kunii, A. B. from a Presbyterian College in South Dakota and a teacher of the Hokusei Jo Gakko, Sapporo and one more Japanese lady are under appointment. Miss Mamie E. Gunter, our National Business Secretary, will spend a few weeks there to assist in the business end of the work in the beginning. Later Miss Kawai will go to Vladivostok to personally supervise the work.

An appeal has been sent from the National Office to every missionary in Japan; to the branch associations; and to personal and individual friends for clothing and beddding for the sufferers in Russia. The response has been most generous. and the office is continually receing packages and money. The school associations are making garment which will be sent to Russia as rapidly as possible. In the Tokyo association members and friends come almost every day to help with the sewing. Small gifts come from kindergartens and Sunday Schools, and the Japanese people are most desirous of showing their symapathy toward this war work. From time to time the National office is arked to be the agent to distribute presenis amone the soldiers at the front, and we are very gled that we can ce of service at this time.

A cablegram came very suddenly from Vladivostok to surpise the National office. It stated that Madame Breskovsky, the "Grandmother of the Revolution" was arriving at Tsuruga the following day, and requested the office to arrange to meet her, and entertain her while in Tokyo. At once Miss Gunter took the night express and went to meet her twa secretaries An orphan Czech boy was in the party, as he hac deen placed in Madame Breshkovsky's care to bring as far as Japan. The boy was to sail at once for America to be educated by a certain philanthropic gentleman. As every boat is very much crowded just now both Madame Breshkovsky and the boy are still at our

FURS
D. KOMEYA
PROP. C. YAMAOKA,
(TANNER)

Furs, Coats, Stoles, Muffs, Brocade Linings, Slippers, Feathers, and Water-color pictures.

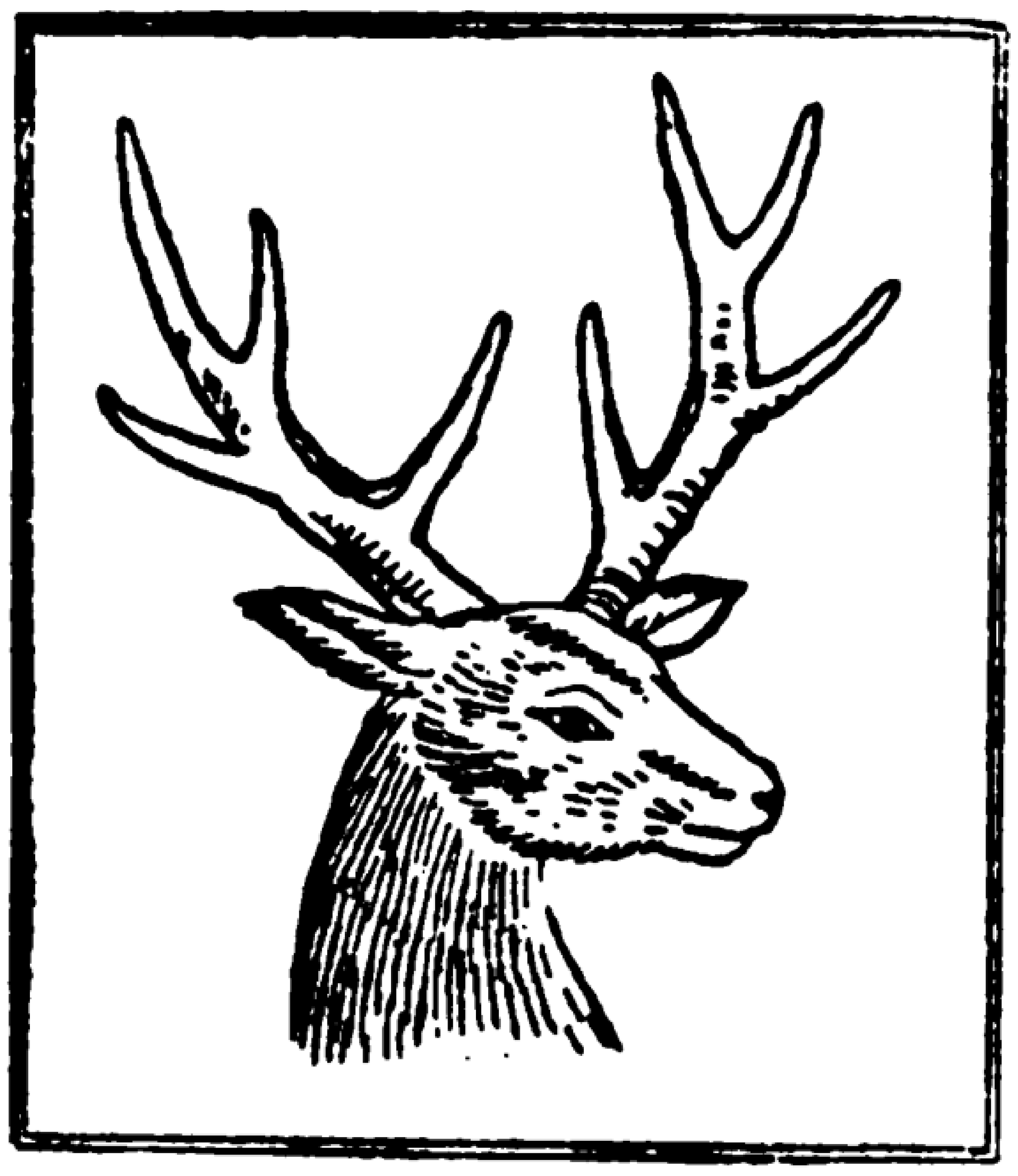
No. 14, Benten-dori, Itchome, Yokohama.
Tel. 3370.

PICTURE DEPT.
No. 4, Benten-dori, Itchome Yokohama.

BRANCH:
Tel. Shimbashi 2179.
No. 1, Minamikinroku-cho, Kyobashi, Near Shimbashi, Tokyo.

MAIN STORE-NIKKO
Summer Branch Karuizawa

貴婦人令孃用
毛皮コート 襟巻 マフ スリッパー 羽毛
絹裏地 水彩畫類 其他毛皮製品種々
何れも最新流行形いろ〱 取揃へてありますから 多少にかゝわらず御用命の程御願上げます、又た御贈答品としては最も好適品であります、御注文も御好みに依り入念調製いたします。



横濱市辨天通一丁目十四番地
コメヤ號 山岡商店
電話長二三七〇番

東京市京橋區南金六町一番地
コメヤ號 山岡商店
電話新橋二一七九

夏期出張所 信州輕井澤

MARUICHIYA
Manufacturer of and Dealer in
-ilk goods, Paper wares and Stationeries,
Wholesale and Retail

Fancy goods department:
No. 8, Benten-dori.
Stationery Department:
No. 9, Benten-dori.
Tel. 4751.

美術雜貨製造販賣
丸一屋
横濱辨天通一ノ入、九番地
電話四七五一

VERYTHING PHOTOGRAPHY
EXPERT KODAK FINISHER
S. MIKADO PHOTO CO
29, Unemecho Kyobashiku
TOKYO JAPAN.
Tel No. 2272. Shimbashi

寫眞器械材料販賣
出寫併寫眞一般應需
美門商會
東京市京橋區采女町
廿九番地歌舞伎座前
電話新橋二二二七番
振替東京一九四九四番

女子青年界第拾六巻第一號（毎月一回一日發行）
大正七年十二月二十八日印刷納本　大正八年一月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認

